

＜参考 1＞助産師の養成数

（1） 県内における助産師養成機関・定員

県立大学看護学部（3年次から選択）定員 15 人、岩手看護短大助産学専攻科定員 15 人（岩手看護短大助産学専攻科は平成 32 年度には募集停止の予定）、平成 29 年度より新たに設置となった岩手医科大学看護学部（3年次から選択）定員 10 人となっている。

（2） 新卒助産師の就労状況（県医療政策室調査）

平成 30 年 3 月に助産師養成課程を卒業した 22 人のうち、県内病院へ就職した者は 10 人（45.4%）であった。（前年度：卒業生 21 人中、県内就職者は 9 人（42.9%））

＜参考 2＞助産師の就業状況

（1） 県内の就業助産師数は、平成 28 年 12 月末現在 389 人（看護職員全体に対する割合 2.2%）であり、前回調査時（H26.12 末：370 人）よりやや増加。

（2） 就業場所別就業状況は、「病院」が266人（68.4%）、「診療所」が72人（18.5%）となっており、「病院」と「診療所」で 9 割近くを占めている。

【県内の就業助産師の状況（主な就業場所別・年次別）】

	病院	診療所	助産所	学校養成所等	その他	計(人)
平成 12 年末	309	31	44	9	13	406
平成 14 年末	265	35	39	17	9	365
平成 16 年末	173	30	25	13	8	249
平成 18 年末 (常勤換算)	222 (221.9)	57 (51.7)	14 (14.0)	13 (13.0)	18 (13.8)	324 (314.4)
平成 20 年末 (常勤換算)	218 (218.0)	67 (53.9)	10 (10.0)	10 (10.0)	18 (9.1)	323 (301.0)
平成 22 年末 (常勤換算)	235 (234.8)	69 (59.8)	11 (11.0)	13 (12.5)	21 (14.5)	349 (332.7)
平成 24 年末 (常勤換算)	243 (242.3)	67 (55.4)	9 (9.0)	13 (13.0)	17 (9.7)	349 (329.4)
平成 26 年末 (常勤換算)	252 (250.5)	74 (61.3)	10 (10.0)	12 (12.0)	22 (12.1)	370 (345.9)
平成 28 年末 (常勤換算)	266 (259.2)	72 (60.2)	11 (11.0)	14 (13.3)	26 (13.2)	389 (356.7)

（出典：厚生労働省衛生行政報告例）

＜参考３＞助産師外来・院内助産

助産師外来を10医療機関で、院内助産システムを2医療機関で実施している。

【助産師外来】

(H30.4.1現在)

	保健医療圏	病院・診療所名	
1	盛岡	民間	岩手医科大学附属病院
2	盛岡	公的	盛岡赤十字病院
3	盛岡	開業医	黒川産婦人科医院
4	岩手中部	県立	中部病院
5	岩手中部	公的	北上済生会病院
6	両磐	県立	磐井病院
7	気仙	県立	大船渡病院
8	釜石	県立	釜石病院
9	宮古	県立	宮古病院
10	二戸	県立	二戸病院

【院内助産】

(H30.4.1現在)

	保健医療圏	病院名	
1	釜石	県立	釜石病院
2	宮古	県立	宮古病院

＜参考 4＞アドバンス助産師

助産師の実践能力が一定水準（助産実践能力習熟段階のレベルⅢ※）に達していることを、一般財団法人日本助産評価機構が書類審査及び試験を実施のうえ認証する制度が、平成27年度から開始されたところ。

認証された助産師は「アドバンス助産師」と呼ばれており、本県では136名が認証されている。

【平成 31 年 2 月 1 日現在での本県認証者数】

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	合計
合格者数	55	77	認証休止	4	136

○ 制度の概要

助産師の実践能力が一定水準（助産実践能力習熟段階のレベルⅢ※）に達していることを、一般財団法人日本助産評価機構が書類審査及び試験を実施のうえ認証する制度。

平成 27 年度から開始され、認証された助産師は「アドバンス助産師」と呼ばれる。

※ 助産師の習熟度は、日本看護協会が作成したチェックリストにより新人からレベルⅣまでの 5 段階に分けられる（自己点検を所属長が確認する）。レベルⅢは上から 2 番目。

○ 制度のねらい

- ・ 5 年毎の更新制度により、助産師が継続的に自己啓発を行い、専門的能力を高めること
- ・ 妊産褥婦や新生児に対して良質で安全な助産とケアを提供し、信頼感の向上を図ること
- ・ 産科医師、妊産褥婦やその家族などが、助産師の実践能力を客観視できること

○ 認証の基準（求められる経験等）

- ・ 分娩介助 100 例以上
- ・ 新生児の健康診査 100 例以上
- ・ 妊娠期の健康診査（妊婦健診）200 例以上
- ・ 産褥期の健康診査 200 例以上
- ・ プライマリー（妊娠～分娩～産褥期）ケース（継続したケアの実践） 20 例以上
- ・ 集団指導、母親学級・両親学級、緊急時の対応（一次救命処置、多量出血等）を実践でき、後輩に指導できる
- ・ 新生児蘇生法、胎児心拍数陣痛図、フィジカルアセスメント、子宮収縮剤の使用と管理、助産記録、妊娠から授乳期における栄養、メンタルヘルス、母子感染の各研修を修了している

＜参考 5＞助産所開設状況

	保 健 医 療 圏	助産所名称【開設者氏名】
1	盛岡	佐藤助産所 【佐藤 ムツ】
2	盛岡	鈴木助産所 【鈴木みち子】
3	盛岡	ハニエルムーン 【月舘 睦】
4	盛岡	まゆみ助産所 【多田 まゆみ】
5	盛岡	助産所「母と子のほっとスペース」 【藤原 幸子】
6	盛岡	紫波エンゼル助産院 【田口 修子】
7	盛岡	助産院 F u r a h a 【大芦 幸子】
8	岩手中部	産前産後ケアハウスまんまるぽっと 【佐藤 美代子】
9	岩手中部	八重樫助産所 【八重樫 トセ】
10	岩手中部	にこにこ助産婦 【八重樫 重子】
11	岩手中部	遠野市助産院（愛称：「ねっと・ゆりかご」） 【遠野市長 （菊池幸枝）】
12	胆江	ママドゥール助産院 【佐藤 ツセ子】
13	両磐	マタニティ相談室くろさわ 【黒澤 真澄】
14	釜石	とき子助産院 【佐藤 時子】
15	宮古	小名助産所 【小名 計子】
計		開設 15 助産所

※ 分娩を取り扱う助産所はない。

※ 気仙・久慈・二戸医療圏には、開業助産所がない。

【嘱託医について】

- 平成 19 年度の医療法改正により、分娩を取り扱う助産所の開設者は、分娩時の異常や緊急時の処置等に対応するために産科又は産婦人科を担当する医師を嘱託医として定めておかなければならないこととされている。
- 平成 19 年度と平成 22 年度には厚生労働省から助産所の嘱託医及び嘱託する病院又は診療所の確保に対し行政が支援（相談窓口の設置）するよう通知が出ており、本県においても、産科等を有する病院の開設者、県医師会、県産婦人科医会等に協力要請を行っている。